

＜参考資料＞ 岩手県の予想災害廃棄物量を基にした処理対象量の推定

被災した沿岸域を県の合同庁舎所在地を核とした4地域に分割し、処理対象量の推定について検討してみました。

表1 処理対象量の予測値

地域名	市町村名	処理対象量予測値(t)				
		可燃物		埋立対象物		
		焼却可燃物(可燃の80%)	柱材・倒木(可燃20%)	混合物の42%	堆積物の10~40%	計
久慈	洋野町	3,477	695	5,406	3,300	8,706
	久慈市	26,867	5,373	36,012	39,600	75,612
	野田村	10,977	2,195	22,137	6,600	28,737
	普代村	9,238	1,848	23,153	3,300	26,453
	小計	50,558	10,112	86,708	52,800	139,508
宮古	田野畑村	27,446	5,489	67,013	3,300	70,313
	岩泉町	4,179	836	7,087	9,900	16,987
	宮古市	129,894	25,979	166,846	59,400	226,246
	山田町	147,185	29,437	225,450	33,000	258,450
	小計	308,704	61,741	466,396	105,600	571,996
釜石	大槌町	121,709	24,342	195,035	13,200	208,235
	釜石市	134,937	26,987	176,753	23,100	199,853
	小計	256,647	51,329	371,788	36,300	408,088
大船渡	大船渡市	110,627	22,125	144,944	105,600	250,544
	陸前高田市	109,736	21,947	163,695	42,900	206,595
	小計	220,363	44,073	308,639	148,500	457,139
計		836,272	167,254	1,233,531	343,200	1,576,731

試算は、可燃物の80%が焼却対象物、残り20%が有効利用できる柱や倒木でバイオマス発電やボートの原料になります。前出した埋立量の試算において一番処理予測値が高かった混合物の42%を埋立対象物とし、堆積物の一部も埋立対象物と試算しました。堆積物は発生場所により、量や性状が大きく異なります。

閉鎖性水域や河口域の堆積物は有機物が多く含まれると予想されますが、砂浜から打ち上げられた堆積物は、きれいにふるい分けすれば再利用可能です。堆積物の発生量は市町村によって大きく異なります。集積場所の堆積物の量から推計して洋野町、野田村、普代村、田野畑村、大槌町、釜石市、陸前高田市は10%、宮古市、山田町は20%、久慈市、岩泉町は30%、大船渡市は40%と試算しました。

平均では18.5%を埋立または焼成対象物と考えました。

県内の埋立可能量は、被災市町村、民間処分場、いわてクリーンセンターの残余容量から試算すると以下ようになります。

表2 埋立可能量の推計

地域名	埋立可能量		
	被災市町村	その他	
久慈	26,812	民間安定型	いわてクリーンセンター
宮古	13,174		
釜石	7,389	200,000	100,000
大船渡	46,353		
計		393,728	

表1の埋立対象物から393,728tを除いた値が平成26年3月までに処理しなければならない量となります。

各地域において、処理先や処理方法を分けて、処理期間を2年5ヶ月（2.4年）として、一日あたりに処理しなければならない量を試算した数値を表3に示します。

可燃物は、地域により若干異なりますが、2.4～2.5年、柱材・倒木は1.1～2.1年、埋立対象物は全て2.4年としました。

表3 1日あたりの処理量と処理期間の推計

地域名	焼却可燃物		柱材・倒木		埋立対象物			
	処理量 (t/日)	期間	処理量 (t/日)	期間	処理量	埋立 不能量	配分	期間
久慈	69	2.4	16	2.1	139,508	104,671	145	2.4
宮古	417	2.5	150	1.4	571,996	429,162	596	2.4
釜石	352	2.4	125	1.4	408,088	306,184	425	2.4
大船渡	305	2.4	130	1.1	457,139	342,986	476	2.4
計	1,143	2.4	421	1.4	1,576,731	1,183,003	1,643	2.4

この数値を、おおまかに県内の処理先の余剰能力を基に計算しますと、焼却可燃物において約480t/日の処理先が不足すると予想され、これらを仮設焼却炉及び広域処理でまかなう必要があると推測されます。

また、埋立対象物も約1000t/日の処理先が不足すると予想され、広域処理でまかなう必要があると推測されます。

以上に述べた状況を考慮し、イメージ化したものが以下の図です。

岩手県災害廃棄物処理実行計画素案(イメージ図)

